

PREMIUM EXPO ご来場の皆様へ

「品質」 じゃない！

「本質」 を変える挑戦



セイメイファームの概要

- 埼玉県のほぼ中心、嵐山町に位置する。
- 昭和40年4月創業
- 成鶏21万羽、育雛6万羽、計27万羽飼養
- 従業員59名（パート含む）
- 加工品（プリン・マヨネーズ）



セイメイファームの飼料の取組

●自家配合工場を完備

全量を自家配合飼料にて給与

配合にこだわり、安全でおいしい卵を生産

2007年より飼料用米を使用

現在1800tの飼料米を直接契約

飼料におけるトウモロコシの重要性

- ・ 全畜種における配合割合 約 4 5 %
(農水省資料による)
- ・ 自家配合飼料における配合割合 約 3 4 %
※セイメイファームでは飼料米により約 2 0 %代用
- ・ デンプンを多く含む貴重なエネルギー源
- ・ 黄身の色を決める大切な要素

セイメイファームの飼料への挑戦

～国産とうもろこし100%使用配合飼料の生産～

現行輸入とうもろこしを使用しているが過去に比べてCP(粗蛋白)が低下しており品質低下が著しい。

弊社における飼料の国内産自給率は36.3%のうち22%は飼料米である。とうもろこしを国産に変更することで自給率は70%を超える。



セイメイファームの飼料への挑戦

～国産とうもろこし100%使用配合飼料の生産～

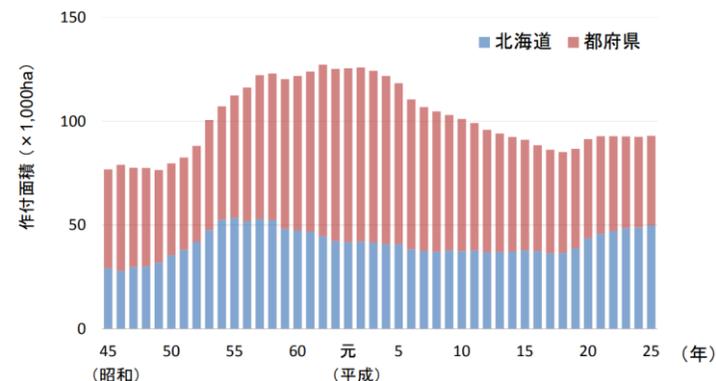
- ・ 鶏卵の品質向上（品質→本質の転換）
- ・ 付加価値商品の開発
- ・ 卵価や物価変動に動じない経営



農畜相互における持続可能な事業であるとともに、輸入依存から脱却し、国内の食料安全保障にも貢献する。

セイメイファームの飼料への挑戦

セイメイファームの国産とうもろこしの年間
使用予定量約1500トン（目標）



我が国における飼料用トウモロコシの作付面積の推移
(農林水産省作物統計及び耕地及び作付面積統計のデータを基に作図。)

資料：農研機構より

子実用とうもろこしの大量生産地は北海道以外にない

それでもセイメイファームは実現に成功しました！！

セイメイファームの飼料への挑戦

セイメイファームの地域における

国産とうもろこし100%戦略

- ・ 耕種農家との長年の信頼関係がある。

現在埼玉県内の耕種農家様と飼料用米の直接契約を結んでおり、R3年度の実績は約1200トン。R4年度産よりとうもろこしの試験栽培を開始していただいた農家様もあり、今後は継続的に飼料米契約農家様を中心に転作を働きかける。農水省、埼玉県、嵐山町からも国内飼料自給率上昇の観点からこの取り組みへの後押しをいただいております、モデル化へ向けて官民一体となり現在進行中。

セイメイファームの飼料への挑戦

セイメイファームだからできる

国産とうもろこし100%戦略

- ・ 自社所有の飼料配合工場がある

従来、飼料は飼料メーカーから購入することが主流なため多少の原料調整はできるものの国産原料による飼料製造ラインが存在しない。一方弊社では自家配合工場を所有し細やかな原料管理・配合調整が可能。

さらに飼料原料の配送バルク車の帰り荷を利用することで配送コストの低減と、地球環境にも配慮した取組を実現。

セイメイファームの飼料への挑戦

国産とうもろこし100%戦略

実現のためのセイメイファームの取組

- ・数量確保に向けた専任担当者を配置

- ・とうもろこし生産に向けた行政との連携

- ・令和5年産とうもろこしから原料を切り替え

初年度数量目標480t調達完了

配合スタートは12月頃を予定

セイメイファームから新たな提案

輸入原料に依存せず国産原料の使用で、日本の農業が強く、おいしくなる

日本卵餌

—にっぽんらんじ—

- ・北海道産とうもろこし・埼玉県産飼料米を使用。
- ・原料から飼料の本質を変え、より安心で よりおいしく。
- ・農業と畜産がタッグを組み、日本本来の強い農業を取り戻す。

農・畜産業界への貢献

～国産とうもろこし100%使用配合飼料の生産～

現実的かつ現代における本質的な耕畜連携を実現し、価格・数量ともに安定的で持続可能な取組を普及していく。



- ・ 適正価格によるとうもろこしの買い取りにより生産者が安心して生産ができる。
- ・ 相場や物価の乱高下に負けない安定的な卵生産供給ができる。